

リーフレット (案)

もっと活用 !! ICT !!

～ ICT を授業以外でも活用し、情報活用能力を伸ばす～

工夫 1 「子供による ICT 活用」「家庭での ICT 活用」「教師自身の ICT 活用」と、三つの場面に絞り、精選した 17 の活用事例を、見開きで見やすくまとめた。

(資料 1)

| | |
|---|--|
| 1 もっと子供が ICT | |
| 子供の活躍を広げるよい方法 事例 1 委員会活動での活用 事例 2 防災訓練での活用 事例 3 子供によるオンライン集会 | 特別な支援を必要とする子供への活用 事例 4 書くことが苦手な子供への活用 事例 5 外国にルーツをもつ子供への活用 事例 6 不登校の子供とつながる |
| 2 もっと家庭で ICT | |
| 家庭学習での一人一台端末の活用 事例 7 少しずつの持ち帰りのすすめ 事例 8 毎日の習慣を ICT に 事例 9 家庭学習の内容の工夫 | ICT を活用した家庭との連携 事例 10 学校の様子の配信 事例 11 オンライン説明会の実施 事例 12 ウェブ会議ソフトでの連携 |
| 3 もっと教師も ICT | |
| ICT で子供と過ごす時間を増やす 事例 13 資料のデジタル化 事例 14 日々の健康観察の ICT 化 事例 15 アンケートフォームの活用 | 教職員全員で活用するための工夫 事例 16 使用時間を増やすための工夫 事例 17 普段の校務の中での活用 |

工夫 2 教員が手に取りやすいよう、リーフレットの文章量を減らすとともに、もっと詳しく知りたい教員のために、リンクボタン (二次元コード) で補足ページにジャンプできるようにした。

(資料 2-A)

工夫 3 イラストを多用し、親しみやすい紙面構成とした。(資料 2-B)

工夫 4 教員の悩みに応える形で活用事例を配置し、読みやすさを大切にした。

(資料 2-C)

工夫 5 それぞれの活用事例の良さや、実践上のコツなどを、「ポイント」として簡潔に紹介した。(資料 2-D)

工夫 6 その他の活用事例を、「アイデア + α」としてページの最後に紹介した。

(資料 2-E)

(資料 2)

特別な支援を必要としている子供を、
ICT で輝かせる方法はありませんか？

アイデア 4 一人一台端末の撮影機能を使えば、書くことが苦手な子供でも観察記録を楽しくつけられます。

文字や文章を書くことを負担と感じている子供は、写真で撮影したものを記録として蓄積していったはどうでしょうか。負担になる活動を取り除くことで、学習への意欲が増した子供が本校にはいます。

ポイント D
一人一台端末で作成したものを、発表や掲示に活用すると、子供たちの認め合いにもつながります。

アイデア 5 一人一台端末の翻訳機能を使いこなせば、外国にルーツをもつ子供の目が輝きます！

外国から来たばかりの子供が、少しでも日本の学校生活になじむことができるように、一人一台端末の翻訳機能を使いましょう。授業に参加したり、友達と少しでも話したりすることができることで、子供の目が輝きます。

ポイント A
一人一台端末を子供が自分自身で操作できるようになると、主体的に道具として使うことができるようになります。

アイデア 6 不登校の子供と担任がウェブ会議ソフトでつながると、少しだけ不安を和らげることができます。

不登校の子供と担任がウェブ会議ソフトでつながれば、学校の授業の様子を伝えることができます。また、不登校の子供が家庭で取り組んだ学習を写真や動画で送れば、学校に自分の頑張りを伝えることもできます。チャットならば話が

ポイント B
できる子供もいますので、友達とつながり、学校との距離を縮めたりすることができます。

ポイント C
学校とつながると、保護者の安心感にもつながります。管理職にも、そのチームに入ってもらうと、より安心です。

できる子供もいますので、友達とつながり、学校との距離を縮めたりすることができます。

ポイント E
学校とつながると、保護者の安心感にもつながります。管理職にも、そのチームに入ってもらうと、より安心です。

アイデア + α

- ・大きな行事に関する予告動画、報告動画等子供が作成し、全校へ放送する。
- ・朝の年度のマニュアル等を、子供自身が一人一台端末で作成する。
- ・外国籍の子供が成長を実感できるように、日本語を使ってロールプレイする動画を蓄積する。
- ・ウェブ会議ソフトで、他校の特別支援学級等と定期的に交流を行う。

(資料3)

工夫7 活用事例の補足ページである「もっとくわしく」には、実践の手順や実践の様子を資料と共に詳しく掲載した。(資料3)

工夫8 情報モラルに関しては、個々の事例についての具体的な注意喚起ではなく、あとがきの中に、基本的な考え方を載せることとした。(資料4-A)

工夫9 文部科学省や県教育委員会などが作成した様々なコンテンツを、紹介するコーナーを設けた。(資料4-B)

工夫10 リーフレットを多くの教員に活用してもらえよう、様々な閲覧・印刷形式を準備した。

- ①Web版 (ハイパーリンク付きPDF)
- ②印刷版1 (リーフレットのみA3裏表2枚)
- ③印刷版2 (全てのページA4 25頁)

アイデア3 オンライン児童集会の企画・運営を子供たちに任せ、活躍の場を広げる

| | |
|--------|--|
| 活用場面 | ・児童会生徒会活動・委員会活動 |
| 準備するもの | ・ウェブ会議機能のある学習支援ソフト |
| 活動の概要 | <p>各教室をウェブ会議機能のある学習支援ソフトでつなぐことで、移動することなく、教室に居ながら児童集会を行うことができる。</p> <p>企画の段階から、オンラインを生かした集会のアイデアを子供から募る。映像やチャット等で双方向にやり取りをすれば、各教室から答えてもらうことができる。</p> <p>さらに、一人一台端末を持ち運んで撮影すれば、テレビ番組のような多人数中継も可能となる。インタビュアーがどこかの教室に行き、リアルタイムでやり取りを中継することで、全校のつながりや一体感を高めることもできる。テレビ番組等をイメージしながらアイデア出しを行い、考え抜くよう促すことで、子供たちの企画力・運営力・実行力が育まる。</p> <p>活動例 委員会の活動に関するクイズ 年中行事に関する雑学クイズ 各学級の自撮り ○○君の特技披露 平路対抗○○勝負 行事の見どころ紹介 など</p>  <p>【図書委員会からの企画:本の紹介と読み聞かせの様子】</p> |

(資料4)

も育っています。

A なかでも、**情報モラル**に関しては、発達段階に応じて、保護者とも連携して育成していくことが大切です。ここでは、IDやパスワードの適切な管理や、自分の生活とメディア利用時間との適度なバランス、SNSでの上手なコミュニケーション等について、安全に行動するための方法や理由を学びつつ、最終的に子供が自分で判断して適切に活用し、行動する力と態度を身に付けることが必要です。

ICTを駆使して情報を主体的にとらえ、必要に応じて他者と協働しながら問題を解決したり、新しい価値を創造したりする時代が、もうそこまで来ています。このリーフレットを参考に、子供たちの情報活用能力を伸ばしていきましょう。

B <情報活用能力育成に有用なサイトの紹介>

| | |
|---|---|
| 文部科学省による一人一台端末の活用事例サイト 「一人一台端末の効率的な使い方」事例集(愛知県教育委員会が作成した授業でのICT活用事例集) 協働教育の充実に関する研究(愛知県総合学習センター作成の、動画によるICT活用授業の紹介) | 情報モラル学習サイト(5分程度で情報モラルの学習ができるコンテンツをたくさん掲載) ネット社会の歩き方(モラル学習に使えるテキスト・PDF等がダウンロード可能) 児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック(文部科学省の健康面に関する指針) |
|---|---|

本日の協議 ①

リーフレット(案)は教員にとって活用しやすいものとなっているか。
また、よりよくするための改善点はないか。

本日の協議 ②

今後の愛知のICT教育推進に必要とされるものは何か。